

8101 古今東西、保守派には人間の強さ弱さを・・・

古今東西、保守派には人間の強さ弱さを見抜いた凄味（すごみ）のある知恵者がいるもので、それが人間の進歩向上を信じているお人好しの左翼には求むべくもない保守派の魅力になっているのであるが、どういうわけか、わが日本國の保守派はもともと知恵とか知性とか頭の良さとかとは無縁であった。

A・J・P（朝日新聞・土曜の手帳）

[許容訳例]

In all ages and all places there have been wise men among the conservatives who could see into the strong and the weak points of human beings. This is the appeal of the conservatives, one which cannot be found in the simple-minded left, which believes that men will advance and improve. For some reason or other, however, Japanese conservatives have from the beginning had no connection with wisdom, intellect, or intelligence.

[翻訳例]

In most ages and most parts of the world, the conservative faction has included in its ranks men of wisdom with a toughness of insight into human strengths and weaknesses that gives the conservative outlook an appeal not to be found in the simple-minded left, with its faith in human progress and improvement, yet for some strange reason the conservatives of this country have always been remote from anything in the way of wisdom, intellect, or intelligence.

●文を分割するか、連結辞に工夫をして元の一文を守るか

この日本文は長い一文です。翻訳の場合は、訳文も同じように one sentence にしたいのですが、単語の一つ一つがお互いに関係を持って絡み合うですから、代名詞の使い方とか冠詞の使い方とか、あるいは tense とかに矛盾が生じないように苦労し、{単位情報} の連結に気を配らなければなりません。ただ、この一文は、

古今東西、保守派には人間の強さ弱さを見抜いた凄味（すごみ）のある知恵者がいる。それが人間の進歩向上を信じているお人好しの左翼には求むべくもない保守派の魅力になっているのである。
しかし、どういうわけか、わが日本國の保守派はもともと知恵とか知性とか頭の良さとかとは無縁であった。

と切っても問題はなさそうなので、三つの文に分けるのも一つの手かもしれません。

■古今東西、保守派には人間の強さ弱さを見抜いた凄味（すごみ）のある知恵者がいるもので、(8101)

★「古今東西」は、普通は In all ages and all places [countries; parts of the world] や、ちょっと文学的に in all ages and climes でいいのですが、英語というのはうるさい言語で、最後の

ところに日本は例外であるという内容がありますから、正確には *in most…*とか *in most other…*としないとおかしいと感じになってしまいます。

★「保守派」は *the conservatives* でもいいのですが、「派」には *faction* を当てるこもできます。*faction* は *Abe faction*（阿部派）とか *Kishida faction*（岸田派）のように狭い意味だけではなく、たとえば *extremist faction*（過激派）のように大きなグループにも使うことができます。なお、辞書には、「保守派」に対して *the old liners* というのも出ていますが、前後の関係では反動勢力といったニュアンスもありますし、古き良き時代に対する憧れを持っている人たちという感じもありますから、ちょっと特殊と思われます。

●「保守派には・・・がいる」には、*There are…in the conservatives.* という定番の文型を使うことができますが、これは幾分静的な感じです。「には」には拘らず *The conservative* を主語にした方が英語としては自然な表現になります。たとえば、よく「政府では・・・」といいますが、この場合も *The government* を主語にする方が自然です。ただ、*The conservative* を主語にした場合、*included in its ranks; numbered among its ranks* というような、元の日本本文にはないものを加えなければならぬので難しいかもしれません。しかし、こういったところに日本語と英語の根本的な違いがあるように思われますので、習熟することが望ましいと思われます。

◆過去も現在も含む時間は現在完了を使う

「古今東西・・・がいる」ですが、「古今」には過去も現在も含まれます。要するに「昔からずっと」ということです。したがって、過去から始まって現在までをカバーできる「現在完了」を使うことになります。完了形はもともと主観表現の一種なのですが、このように時間の表現にも転用されます。

★「人間の強さ弱さ」は *the strong and weak points of human beings* でもよいし、*human strengths and weaknesses* とか *men's[human being's] strength and frailty* も可能です。

★「見抜く」は *see into* です。*see through* は相手が誤魔化そうとしているところを見抜くということですから、この場合には合いません。

●「連体修飾節+不定代名詞的体言」（凄味（すごい）のある（知恵者））

「凄味（すごい）のある」は、辞書には *frightening; threatening* とか *sinister-looking* とかヤクザ向きの形容詞しか出ていません。ここは、後の「人間の進歩向上を信じているお人好し」に対応しているのですから「センチメンタルで安易な考え方をせずに物事をよく見詰める・見据える」と解釈すると、「連体修飾節（凄味のある）+不定代名詞的体言（人）」となりますから(men) *with(=having; who have) a toughness of insight into…*、あるいは(men) *with(=having; who have) a merciless insight into…*とすることができます。この場合の *tough* は *hard-headed* と同じように、「物事を現実的にそのまま見詰めようとする姿勢」を言います。

★「知恵者」は *wise men* あるいは *men of wisdom* でいいと思います。*men of ideas* はちつと違います。これには二つの意味があります。一つは「物事をよく考える人」、もう一つは

「次から次と新しいアイディアを出す人」で、「知恵者」には当たりません。

- 連体修飾節+隠れ連体修飾節+体言（人間の強さ弱さを見抜いた凄味（すごい）のある知恵者）

「人間の強さ弱さを見抜いた凄味（すごい）のある知恵者」は連体修飾節の塊のようなものです。分解すると「人間の強みや弱みを見抜き+凄味を持ち+知恵を持つ」+「(特定)者」とも考えられますし、「人間の強みや弱みを見抜くほど+凄味を持ち+知恵を持つ」+「(特定)者」のようにも感じられます。ですから、「連体修飾節+特定体言」として、英語では「(代)名詞+コンマ関係詞節」で、sharp[tough] and wise men, who can see into human strengths and weaknesses とか、wise men[men of wisdom], who are so tough that they can see into human strengths and weaknesses→wise men[men of wisdom] with a toughness of insight into human strengths and weaknesses とすると、元の日本文とほぼ同じ感じにならうではないかと思います。

- それが人間の進歩向上を信じているお人好しの左翼には求むべくもない保守派の魅力になっているのであるが、(8101)

●「それが・・・」の「それ」とは「その知恵者がいること」とも考えることができますが、「見抜くその凄味」と考えることも出来ます、三つに分割して訳すなら「それが魅力である」(This is...)ですが、日本文と同じように一文にしたいなら、前の a toughness を先行詞にして関係代名詞を連結辞を使って a toughness (of insight into...) that...とつなぐことができます。

★「人間の進歩向上」は、そのまま変換すると human progress[advance] and improvement ですが、背後には「人間は進歩向上する」(men will advance and improve)と一つの {単位情報} が潜んでいます。これも使うことができます。

★「信じている」は believe です。

★「お人好しの」は、辞書には good-natured とか credulous がでていますが、ここの「お人好し」には、ちょっと馬鹿にした感じが含まれています。good-natured には少しも批判的なニュアンスがないので、ここでは使えません。もっとも too を加えて使うと You are too good-natured のように「お人好しだね」となります。それから credulous は人の言ったことや自分が読んだことをすぐ鵜呑みにするというニュアンスがありますから、ここでは適当ではありません。ここでは simple-minded がいいと思います。これは innocent ですぐ人を信じてしまうという感じです。なお、simpleだけだと意味が曖昧です。「单なる」とか「ただの」という意味になってしまいます。

★「左翼」は the left です。leftists とか、a left-winger という言い方もあります。

- 「連体修飾節+特定体言」（人間の進歩向上を信じているお人好しの左翼）

「人間の進歩向上を信じているお人好しの左翼」は「連体修飾節（人間は進歩向上すると信じている）+特定体言（お人好しの左翼）」ですから「特定名詞+コンマ関係詞節」で the simple-minded left, who believes that men will advance and improve と処理することができます。

ます。また、関係詞節を「句」に変えて with its belief in human progress and improvement とつなぐこともできます。

★「・・・には求むべくもない・・・」ですが、句とするなら…not to be found in…でしょう。節を使うなら…which cannot be found in…です。

★「保守派」は「保守の人たち」(the conservatives)でもいいのですが、「その凄味が保守派の魅力である」という論旨と考え合わせると「保守派の人たち」というよりは「保守という生き様・処し方・姿勢」を意味しているように感じられます。したがって、the conservative outlook と訳したいと思います。この outlook は「心の持ち方；見解；態度」という意味です。

★「魅力」は、ここでは appeal (心に訴える力) でしょう、charm も「魅力」ですが、ここではちょっと可愛らしすぎます。

★「(保守派の魅力) になっている」は this is an appeal of the conservatives でもいいですし、上で述べたように this=a toughness とすると、an appeal that a toughness gives the conservative outlook (凄味が醸し出す魅力) となります。

● {単位情報} をつなぐ

「それが人間の進歩向上を信じているお人好しの左翼には求むべくもない保守派の魅力になっている」は、連体修飾節や隠れ連体修飾節の塊です。元にもどすと「その凄味が+①人間は進歩し向上するものだと信じている+②お人好しの左翼には求めることの出来ない（魅力で）③その凄味が保守派に与えている+魅力である」です。文の根幹は簡単で「それは（凄味こそ）魅力なのである」(This (=The toughness) is an appeal.) ということです。これに、①、②、③の連体修飾節をそのまま、あるいは句に変えて、配置や連結辞に工夫を加えたのが元の日本文です。すでに検討した {単位情報} の語彙・表現を基に英文を組み立てると①の「人間は進歩し向上するものだと信じている（お人好しの左翼）」は the simple-minded left, who believes that human beings will advance and improve です。②の「お人好しの左翼には求めることの出来ない（魅力）」は(an appeal) which cannot be found[not to be found] in the simple-minded left です。③の「凄味が保守派（的生き様）に与えている魅力」は an appeal which a toughness gives the conservative outlook です。これらを英語の配列に並べ替えると

This is an appeal that a toughness of insight into human strengths and weaknesses gives the conservative outlook [the conservatives], and which cannot be found in the simple-minded left, who believes that human beings will advance and improve. となります。and which は …, one which と（して同格に）すると自然になります。なお、全体を日本語のように一文で纏めたいなら、men of wisdom[wise men] with a toughness of insight into human strengths and weaknesses that gives the conservative outlook[the conservatives] an appeal not to be found in the simple-minded left, with its faith in human progress and improvement, yet…とすることになります。

◆ 「コンマ+関係詞節」と with…の関係

上の文の中に the simple-minded left, who believes that human beings will advance and improve という箇所があります。who の前にコンマを打たないと「人間の進歩向上を信じていないお人好しの左翼」の存在を認めていることになります。簡単な例で示しますと、たとえば、こういう言い方はあまりしないのですが The Japanese who love cleanliness take many baths. とうすと、love cleanliness でない Japanese の存在を認めていることになって、意味があるとすれば、「日本人の中で清潔好きな人々はよく風呂に入る」ということになります。The Japanese, who love cleanliness, take many baths. とすると、「日本人は清潔好きなのでよく風呂に入る」になります。で、今度は The Japanese with their love of cleanliness take many baths. とすると、多義的な「コンマ+関係詞」よりも「清潔好きなので」という理由がはっきり現れてきます。「コンマ+関係詞」はいろいろな意味になりますが、with…の方は「コンマ+関係詞」よりもはっきり理由を説明することになるのです。

■ どういうわけか、わが日本国の保守派はもともと知恵とか知性とか頭の良さとかとは無縁であった。(8101)

★ 「どういうわけか」は for some reason or other か、あるいは for some strange reason といった表現がぴったりすると思われます。なお、こういう文章には、I don't know why, but…というような一人称の文は使わない方がいいと思います。

★ 「わが日本国の保守派」は、以前も書きましたが、our Japanese…とはしない方がよく、単に Japanese conservatives とするか、あるいは The conservatives of this country にすると日本文に近くなります。

★ 「もともと」は from the beginning か、あるいは always とか never を使っても「もともと」という意味が入ります。

★ 「知恵とか、知性とか、頭の良さ」は wisdom, intellect or intelligence ですが、日本文では「…とか…とか」となっているので、最後に and the like を入れるか、前に all such things as…あるいは anything in the way of…を入れると日本語にぴったりかもしれません。

★ 「無縁であった」は be innocent of…とか、have no connection with…とか、be remote from…でしょう。辞書には be indifferent to…が出ていて、意味が通じないことはありませんが、indifferent というのは、それがすぐ自分の目の前にあっても無関心であるという感じなので、ちょっとずれます。